

科目名	コンピュータシステム I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	瑠璃垣 孝一		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	経済産業省主催 ITパスポート試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、新しい技術(AI、ビッグデータ、IoT など)や新しい手法(アジャイルなど)の概要に関する知識をはじめ、経営全般(経営戦略、マーケティング、財務、法務など)の知識、IT(セキュリティ、ネットワークなど)の知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学ぶ。基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を汗流して知識の習熟を高める。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					※ 主たる方法:	<input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					企業活動に必要な経営管理の手法や、経営戦略用語を理解し説明できる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				財務についての用語や計算方法を理解し、損益分岐点や利益の算出ができる。	
	<input type="radio"/>					システム開発の流れについて理解し説明できる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				情報機器について、性能、特性や機能を理解し、適切に活用できるようにする。	
<input type="radio"/>					ソフトウェアとハードウェアの種類と意味を覚え説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	留学生のためのITリテラシー(インフォテック・サーブ)、ITパスポート過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	企業活動、法務					
	3-4	経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント					
	5-6	ビジネスインダストリ、システム戦略					
	7-8	システム企画、システム開発技術					
	9-10	ソフトウェア開発管理技術、プロジェクトマネジメント					
	11-12	サービスマネジメント、システム監査					
	13-14	基礎理論、アルゴリズムとプログラミング					
	15-16	コンピュータ構成要素、システム構成要素					
	17-18	ソフトウェア、ハードウェア					
	19-20	ヒューマンインタフェース、マルチメディア					
	21-22	データベース、ネットワーク、セキュリティ					
	23-24	ストラテジ系まとめ				これまでの範囲を復習しておくこと	
	25-26	マネジメント系まとめ				これまでの範囲を復習しておくこと	
	27-28	テクノロジー系まとめ				これまでの範囲を復習しておくこと	
29-30	総復習				これまでの範囲を復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				60%
	課題・レポート	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		20%
	受講状況				<input type="radio"/>		20%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	浜地 啓		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	Javaの開発環境とプログラミングの基礎文法を学んだ後、オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、継承を中心に学習を進める。各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Javaの開発環境を設定できる	
		○				変数宣言、条件分岐、繰り返しを使ったプログラムを作成できる	
	○	○				クラスや継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	株式会社アंक『Javaの絵本 第3版』翔泳社、2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	開発環境の構築・基本的なプログラム					
	5-8	変数と型					
	9-12	文字と文字列					
	13-16	配列					
	17-20	多次元配列					
	21-24	比較演算子					
	25-28	論理演算子					
	29-32	if文、switch文				授業の前半の内容を復習する(2時間)	
	33-36	while文、for文					
	36-40	クラスの基礎(フィールド、メソッド)					
	41-44	クラスの基礎(オーバーロード、コンストラクタ)					
	45-48	クラスの継承					
	49-52	Java検定3級対策①					
	53-56	Java検定3級対策②				Java検定3級の問題を解いてくる(2時間)	
	57-60	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)授業の中で課題を指示する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	IT応用 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原田 寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	PowerPointを使って、プレゼンテーションを作成し、発表の練習をしながら、内容がしっかりと相手に伝わる発表ができるようにする						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					PowerPointを使って、プレゼンテーション資料が作成できる	
	○	○				相手に伝わるように発表ができる	
テキスト・教材 参考図書	講師作成資料等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	PowerPointの画面構成、スライド作成					
	2	アニメーション、画面切り替え効果					
	3	リハーサル機能					
	4	スライド作成					
	5	スライド作成					
	6	第1回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
	7	第1回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
	8	アニメーション付きのプレゼン作成					
	9	アニメーション付きのプレゼン修正					
	10	アニメーション付きのプレゼン仕上げ					
	11	発表練習(Wordで発表内容をまとめる)					
	12	発表練習(発表内容の修正)				発表内容はある程度完成させる	
	13	スライド修正、原稿完成					
	14	第2回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる	
15	第2回プレゼン発表				発表前にはプレゼンを完成させる		
評価方法	(1)授業の中で課題を作成する。(2)発表内容を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作成		◎				60%
	発表内容	○	○				40%
履修上の注意	課題は毎回忘れずに提出すること。2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	言語ⅡC・D						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田中・刀根・安部・黒岩・染矢		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	言語の基本は語彙である。日本で仕事をする力の一つとして理解し使用できる語彙を増やしていくことは必須条件である。そのため、身近なテーマから語彙の知識を深めていき、中級レベルから上級レベルの文字・語彙をつかった表現を習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○						
		○					
テキスト・教材 参考図書	身近なテーマから広げる！ にほんご語彙カアップトレーニング 初級がおわってからレベル(アスク出版 2015年)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	桜が舞う ～季節～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	2	桜が舞う ～季節～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	3	猫の手も借りたい ～慣用句・ことわざ～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	4	猫の手も借りたい ～慣用句・ことわざ～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	5	富士山 ～世界遺産・名所紹介～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	6	富士山 ～世界遺産・名所紹介～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	7	50%を占めている ～グラフ～			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 進出語彙は意味を調べて覚えてくる(1時間)		
	8	50%を占めている ～グラフ～			本日の授業の復習をする。/ 定期テストの準備(1時間)		
	9	定期テスト①					
	10	JLPTN1対策プリント			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 (1時間)		
	11	JLPTN1対策プリント			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 (1時間)		
	12	JLPTN1対策プリント			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 (1時間)		
	13	JLPTN1対策プリント			本日の授業の復習をする。/ 次回の予習をしてくる。 (1時間)		
	14	JLPTN1対策プリント			本日の授業の復習をする。/ 定期テストの準備(1時間)		
15	定期テスト②						
評価方法	定期テスト(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期テスト	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				30%
	出席・授業態度				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語ⅡC・D						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	刀根・安部・伊東・平城		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	N1レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					N1レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。	
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。	
		○				文章を正しく読み取り、文脈や話の意図を理解し説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	新完全マスター聴解 日本語能力試験N1(スリーエーネットワーク 2011年) 日本語総まとめ N1 読解 [英語・ベトナム語版](アスク出版 2019年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	「ポイント理解」練習問題／読解:第3週4～5日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	2	聴解:V「概要理解」のスキルを学ぶ(1)／読解:第3週6日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	3	読解:第3週7日目 実践問題				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	4	聴解:V「概要理解」のスキルを学ぶ(2)／読解:第4週1日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	5	聴解:V「概要理解」のスキルを学ぶ(3)／読解:第4週2日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	6	聴解:V「概要理解」のスキルを学ぶ(4)／読解:第4週3～4日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	7	聴解:V「概要理解」のスキルを学ぶ(5)／読解:第4週5～6日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	8	聴解:「概要理解」練習問題				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	9	読解:第4週7日目 実践問題				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	10	聴解:VI「統合理解」のスキルを学ぶ(1)／読解:第5週1日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	11	聴解:VI「統合理解」のスキルを学ぶ(2)／読解:第5週2日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	12	聴解:「統合理解」練習問題				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	13	読解:第5週3～6日目				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
	14	読解:第5週7日目 実践問題				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)	
15	定期試験				新出語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)		
評価方法	(1)小テストを数回実施する。(2)宿題を課すことがある。(3)定期試験(筆記・聴解)を実施する。 (4)出席状況、授業態度も評価の観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				30%
宿題・出席・授業態度				○		20%	
履修上の注意	進捗は状況によって変更する場合があります。						

科目名	言語ⅡC・D						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田中・刀根・染矢・伊東・黒岩・徳田・諸賀		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	N2レベルの文法項目を学び、日常的な場面に加えて更に幅広い場面で使われる日本語が理解し、運用できるようになる						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日常のより幅広い場面で必要なN2レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる	
	○					フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる	
		○				学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる	
テキスト・教材 参考図書	TRY!日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語(アスク出版 2013年)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	ビジネス場面の会話			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	3-4	友達同士の会話			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	5-6	友達同士の会話			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	7-8	エッセーを読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	9-10	エッセーを読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	11-12	記事を読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	13-14	記事を読む / ビジネス場面の会話			本日の授業の復習をする。/ 定期テストの準備		
	15-16	ビジネス場面の会話 / 定期テスト			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	17-18	ストーリーを読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	19-20	ストーリーを読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	21-22	ストーリーを読む / 社説を読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	23-24	社説を読む			本日の授業の復習をする。/ 次回授業の予習と「やってみよう」を理解してくる(1時間)		
	25-26	社説を読む			本日の授業の復習をする。/ 定期テスト準備(1時間)		
	27-28	定期テスト②					
	29-30	まとめ					
評価方法	定期テスト(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期テスト	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎				30%
	出席・授業態度				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	一般教養Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	原田 寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	言語と非言語の文章題を解く事により、社会人として必要な知識や問題解決力を身につけることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日本で生活をする上で最低限必要となる漢字の問題を解くことができる。	
	○	○				数的な問題の基本を理解し、自分の力で問題を解くことができる。	
		○				時事問題について自分の考えを持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、就職適性検査の説明、漢字					
	2	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	3	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	4	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	5	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	6	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	7	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	8	SPI対策、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	9	時事、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	10	時事、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	11	時事、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	12	時事、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	13	時事、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	14	時事、漢字				漢字の確認テストの準備をしてくる	
	15	確認テスト				正試験に向けての準備をしておくこと	
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)確認テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	確認テスト	○					30%
	授業態度・出席状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	接客演習B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫嶋 幸子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	1)日本でのビジネス場面で、必要なマナーについて知識を得る 2)1)を踏まえてビジネスシーンでの受付対応、お見送りができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			第一印象を大切にしたい挨拶を常にすることができる	
	○	○				正しい敬語で受け答えができ、相手に良い印象を与えるポイントを説明できる	
	○					日本独特のしきたりを理解し、正しいマナーを日本語で説明できる	
	○		○			愛想のよい電話の受け方ができる	
○					あらゆるサービスの場面で適切な対応の仕方を選択肢から選ぶことができる		
テキスト・教材 参考図書	参考: サービス接客検定3級実問題集・プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第一印象・感じのいい自己紹介					
	2	第一印象・入退室				ロールプレイングのための課題をすること	
	3	敬語・書類の渡し方				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	4	指し示し方・物の拾い方、渡し方					
	5	日本における感じのいいビジネスパーソンの髪型、服装					
	6	日本における冠婚葬祭時のしきたりとマナー				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	7	受付対応練習①基本的な言葉の練習				ロールプレイングのための課題をすること	
	8	受付対応練習②ご案内のルーティンを覚える				ロールプレイングのための課題をすること	
	9	受付対応練習③クレームをうける				ロールプレイングのための課題をすること	
	10	受付対応練習④総復習					
	11	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	12	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	13	サービス接客検定3級にチャレンジ				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	14	サービス接客検定3級にチャレンジ					
15	まとめ・発表会						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを適宜実施する。(2)学習したことをロールプレイングで表現する (3)発表会を日本語で行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				40%
	態度・意欲・出席				○		20%
	ロールプレイング		○	○	◎		20%
発表会	○		○	○		20%	
履修上の注意	授業で学んだことは、アルバイトなど、日常生活の中で実践すること 各テストで60点以上得点できるよう、必ず授業の復習を行うこと。						